

届いた！船橋市民の声／

# 2020年、船橋地区海岸保全施設の耐震対策・老朽化対策の早期整備の事業化に向けた調査が始まります！

水門・排水機場や護岸などの船橋地区の海岸保全施設は整備から40年以上が経過し、老朽化が進行。背後にはゼロメートル地帯を含む区域に市役所等の行政機関や子どもたちの通う学校、そして多数の企業が立地し、更に住宅地が密集しています。

今後想定される高潮や大規模地震から効率的・効果的に、市民の暮らしを護るため、一刻も早い対策が必要です。しかし例えば海老川水門については1年に200日以上稼働させながらの大変難しい工事となり、高い技術力が求められます。そこで、私、木村てつやは、それゆえに国の技術力＝直轄事業化の必要性を、強く強く訴えてまいりました。



水門の老朽化状況



護岸等の老朽化状況

## 令和2年度 48百万円の調査費を獲得 事業化への大きな大きな一歩

この度、令和2年度本予算で事業化に向けた48百万円の調査費を獲得。まずはボーリングなどの土質データ調査を開始します。今後、さらなる調査が進められ、環境に与える影響や災害発生状況等も含めた多面的な評価を実施し、「事業の必要性」を確認され、「事業化の決定」と進められていきます。

また、日の出排水機場老朽化対策に、本年度2.2億円の事業費が採択され、令和3年度完成目標で総事業費4億円の獲得、また千葉港全体には防災・安全交付金として、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策から145百万円の予算の配分をいただきました。

これもひとえに、船橋市民のみなさまと船橋市の一致結束した活動の賜物であります。

今後もみなさまから頂いたご信任を裏切ることなく、また寄せられたみなさまの声を着実に実行していけるよう、私、木村てつやは一層努力していくことをお約束いたします。



# 木村てつやは生活に寄り添う政策を 着実に実現していくことをお約束します！

令和2年4月1日 木村 哲也

# 木村てつやと歩む船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会の活動

## 平成31年2月 船橋地区海岸保全施設耐震化促進協議会 発足

2018年12月に「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急計画」を政府が閣議決定したことを受け、国直轄で耐震化・老朽化対策を進めようと、木村てつやの呼びかけで地元湊町自治会連合会を核に「船橋海岸保全施設耐震化促進協議会」が発足。木村てつやは協議会相談役代表に就く。



## 3月8日 国への要望活動を実施

船橋市長、船橋商工会議所会頭、船橋市漁業組合組合長そして湊町自治会連合会町会長など総勢30名ほどで、菅義偉内閣官房長官と国土交通省へ早期事業化に向けた要望活動を行いました。



## 4月8日 老朽化の進む海岸保全施設の現地視察会およびミーティングを開催

管理者である千葉県土整備部による現地視察会が開催され、100名を超える方々が参加。視察後の浜町公民館でのミーティングでは住民たちによる活発な意見交換がされました。その後、木村てつやは住民たちの貴重な意見をまとめて国交省へ報告。



## 6月15日 第1回シンポジウムの開催

住民一丸となって活動を進めることを提案するため、船橋市自治会連合協議会を共催とし船橋市民文化ホールにて「～進めよう防災・減災～強くしてしなやかな千葉港へ向けたシンポジウム」を開催。会場は満席となり、協議会決議文を満場一致で承認。「ガンバローコール」で会場は大変な熱気に包まれました。



## 9月6日 石井国交大臣・菅官房長官に接見 要望を提出

松戸徹船橋市長と共に、協議会活動で得た20,054名の署名と222もの賛同いただいた団体・企業名簿を携え、協議会、船橋市それぞれの要望書を提出に、菅義偉官房長官や石井啓一国土交通大臣(当時)へ接見を実現しました。商工会議所、JA、PTA、商店会連合会、自治会連合会、漁業組合そして自民党、公明党県議団・市議団、総勢60名「ワンチーム船橋」で要望に臨みました。



石井啓一国土交通大臣



菅義偉官房長官

## 木村てつやはワンチーム船橋で早期事業を実現へ



## 令和2年2月11日(火・祝) 第2回シンポジウム開催で予算獲得へ一致団結

事業化の早期実現を求め、より一層船橋市民の合意形成を図るため、船橋市民文化ホールにて2回目となるシンポジウム「港湾が支える暮らしと経済 災害に屈しない船橋を創るシンポジウム2020」を開催。会場は満席となり、最後の「守ろう!船橋」コールで、会場は再び熱気に包まれ一致団結しました。



木村てつやは船橋市民の毎日の暮らしと大切な生命・財産を守ります

